

平成 25 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

4 廃棄物最終処分場の廃止に向けた適正管理とモニタリング手法に関する研究

[総合評価とコメント]

- 廃棄物処分場が満杯になった後、廃止の判定がなされるためには、汚染物質の溶出やガス発生が安定化していることが必要であるが、具体的な手法が明確に定まっていないことに着目した課題であり、有用性の高い課題設定といえる。
 実際に埋め立て途上にある処分場を用いたケーススタディーを中心とした計画になっており、研究の実現性が高く、有用なデータが得られることが期待される。
 ケーススタディーサイトは比較的条件のよい現場なので、得られた知見を将来より条件が悪いサイト（他県や民間を含む）にどう適用するかの検討も、課題と思われる。
 共同研究の参加機関で得られた情報の有効活用に十分留意されたい。

- 最終処分場の廃止に関する分析は県のみならず全国的に重要な課題。廃止後の用途も決まっているということで、緊急性もかなりあると考える。
 この処分場についてはかなり安定した廃棄物が多いので有機物が多い処分場の参考にはならない向きもあるが、内容物もよくわかっており貴重なデータが得られる研究。
 廃止はかなり長期にわたった管理が必要となるので、ぜひ2年でとどめず長期的にデータを取る研究を行っていただきたい。
 埋め立て物の変化と降雨量の関連も含めた解析を行っていただきたい。
 課題評価票の「計画の妥当性」に関しては、まだ決まっていない部分が多いので3とした。

- 神奈川県にとどまらない重要な研究課題であると認識します。また、このような調査は設置者の協力が得られる場所で行えないので、貴重な試みであると評価します。
 2年の計画であるが、調査の頻度は減らしても継続的な調査が望まれるように考えます。
 水質のモニタリングは、硫化物などが予定されているが、その他のイオンや化学物質も可能な範囲で加えていただくと、新しい発見につながる可能性がある。埋め立てられている廃棄物から溶出する可能性のある化学物質などを探索して追加することを検討していただくとありがたい。

- 最終処分場の廃止は、多くの自治体で廃止基準の明確化を求める声は多い。廃止基準のうち、浸出水中の汚濁成分濃度などは、基準が明確であるが、熱、ガスなど、現在、具体的な、モニタリング手法、基準の設定の根拠が明確となっていない。
 本研究で、共同研究として複数機関で多面的に検討することは、県内のみならず、全国の問題解決に成果が活用できる可能性を持っている。
 なお、処分場で今年度実施されるキャッピングの効果については、具体的な条件が明確でないことから、施工条件が決まり次第、研究での調査方法の詳細を決定し調査に入ることを望む。
 また、研究成果により、県で保持する処分場の早期安定化、早期廃止が進むという可能性が高く、県として実施する研究の重要性は高い。

(数値的評価)

★評価者4名

〈評価の内容〉	〈評価項目〉	〈ランク〉
課題設定の妥当性	○背景と必要性	5 (3人) 4 (1人) 3 (0人) 2 (0人) 1 (0人)
	○優先性	5 (1人) 4 (3人) 3 (0人) 2 (0人) 1 (0人)
計画の立案と実施方法	○研究内容	5 (0人) 4 (4人) 3 (0人) 2 (0人) 1 (0人)
	○計画の妥当性	5 (0人) 4 (3人) 3 (1人) 2 (0人) 1 (0人)

※ランクは、5点満点の評価で5 (優) ~ 1 (劣)